

光明禅寺

第519号

令和七年十二月

現在に活きる

仏の教え

投げ出さない事。逃げ出さない事。信じ抜く事。駄目になりそうな時それが一番大事だ。

人の上に立つ限り、非難をまぬがれることは不可能だ。気にしないようにするしか手はない。

解決策というのは、後から振り返ってみれば、簡単に見つけられるようなことなんだ。

悲しい過去よりも、可能性を秘めた未来を見つめよう。

電話 221 41217 (2回線)
5111 090 7981 9123
FAX 241 3519

(県・市文化財指定安置所)

〒810-0200 沼市十町南迫田二七六八

十二月の行事

一 暁天竺禅会 初一日曜(七日) 朝六時
初三日曜(二十日)

一 釋迦如来成道報恩会
八日 二時

一 地藏尊・木子供養
年中行事、納め法要
二十四日 二時

一 除夜法要 三十日 夜11時20分

除夜の鐘 45分より

お知らせ

ホームページを作ってから、三年とたちます。それでホームページを見たと言って初めて写経に来て下さいました。

うれしゅうございまして、これからもう

若衆がホームページ（源忠山 光明禅寺）を見て下さり、活気づいてくれればうれしいのですか、――

・迷いを直視する・

人間は、年月とともに年をとり、やがて死ぬということは誰もが認めていることです。万物は自然現象によってあるいは、人間の力によって変えられていきます。変化しないと思っていることすら、実は変わっているのです。私たちはそれに気づいていないのです。すべてのものは変化し、決して不変

恒常でないとするれば、一体何が不変なものなのでしょうか。私たちは、真理は不変なものであるといえます。そして古来、私たちは生死の間に迷う姿は私たちのこの世の姿である。これもまた真実でなければなりません。あめしたい、こうもしたい、こうありたいと、文字通りあくせくすることであつて日常の暮らうはそのようにして日々を送り死に近づいてゆくのです。これを迷いの世界というのですが、それを私たちは迷いと思っていないところに、日常生活への反省が徹底されていない点があるのです。真理を直視し、この迷いの世界の中で私たちの生き方を立て直してゆくことが大切ですが、しかし、迷いをなくすということは、実際には日常生活を全く否定してしまうことに等しい

のですから。迷いの世界はそれをそのまま認めることによって、新たな世界へと眼を開くようにしたいものです。仏の教えはまさにこの新しい世界をさし示すものにほかならないのです。私たちの日常の諸行、いろいろなしぐさはすべての迷いの結果であることを知ることによってなし得られます。日常の忙しい生活の中にも、今一度、此の世の生活をかえりみて、世界に眼を開いてみるのが大切です。ご先祖の供養をするのも、世界に目を開き願いをこめて、仏に礼拝し、如来への皈依を表すためです。変わるものから変わるものへ、迷いから真理への道はけわしく、如来へ皈依する以外にその方法はないということに気づくことです。私たちは日々の生活をかえりみて、迷いの世界にあることを認め、新しい世界へ

思いをいたしてみようではありませんか。

・老いを自覚する。

「わかきとき、仏法はたしなめ。こしよれば、行歩もかなわす、ねむたくもあるなり。ただわかきとき、たしなめ」

仏法を聞くということは、わが身の事実に気づかされていくということです。

私たちは事実がなかなか見えずに、自分の思いで自分を評価し、自分の思いで世間を見ていくことが多いのです。要するに妄想しているのです。妄想に気づかなければ、夢を見ているような人生で終わってしまいます。私たちは自分の「老い」を正確に自覚しているかといえは、なかなかそうではありません。病気になるって、はじめて年齢を思い知らされることになるのです。ああ自分も年

齡だ、と。しかし喉元すぎれば熱さぬされる、
というていたらくです。「老い」とは、弱っていく、
衰えていく、そして肉体が確実にだめになって
いくということであり、だれもこの事実から逃
れることはできません。いつまでも元氣、元
氣と思つてゐるのは、妄想到にすぎません。妄
想は破れ、事実の露呈してくることは、
いかんともしかたないものがあります。この
事実を正視すること、そこから新た
な生活がはじまってくると思ふのです。
老いの苦しみを超える道はないだろうかと
たずねることです。それは「老いの身」
をこまかさないところにあります。仏法
を聞くとは、「老いの身」の事実を知ら
されていくことでした。そこから、孤独、自
閉、寂しさ、能力の低下にそなえる生
き方が模索されてきます。信心に生
きるとは、無量寿のいのちに生きる、

ということであり、無量寿とは永遠
ということであり、老いも超え、病も超
え、死をも超えたいいのちです。永遠
のいのちをよりどころとして生きるとは、
限りのある人生が限りない人生になる、
ということであり、そのとき私たちの人生
は、日に日に新たな事実の世界の外
にはないこととなります。

訃報

玉利地区の今福ミ千子様が
病氣療養中でしたが十一月二十八日
八十歳を以て永眠致しました。
ここに故人の御冥福を切に
お祈りします。